

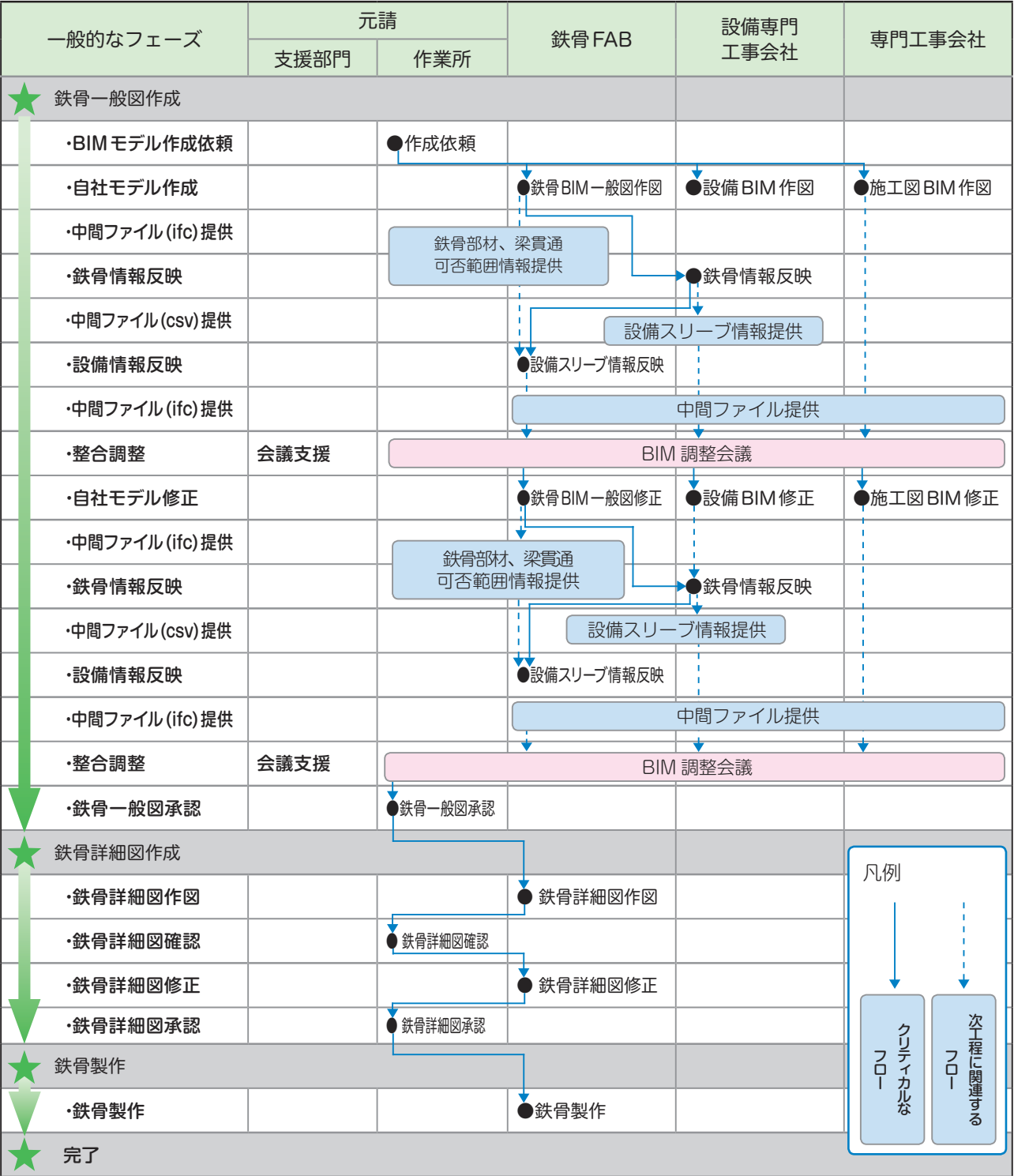
4. 製作図BIM

ここでは、製作図作成のために鉄骨専用BIMソフトを活用してBIMモデル合意を実施する場合のワークフローを紹介します。

ここがPoint

鉄骨一般図に関わる整合調整においては、作業所、設計者、および鉄骨に取合う工事の関係者が一堂に会し、可能な限りその場で調整を完了させよう。

0. 製作図BIMのワークフロー



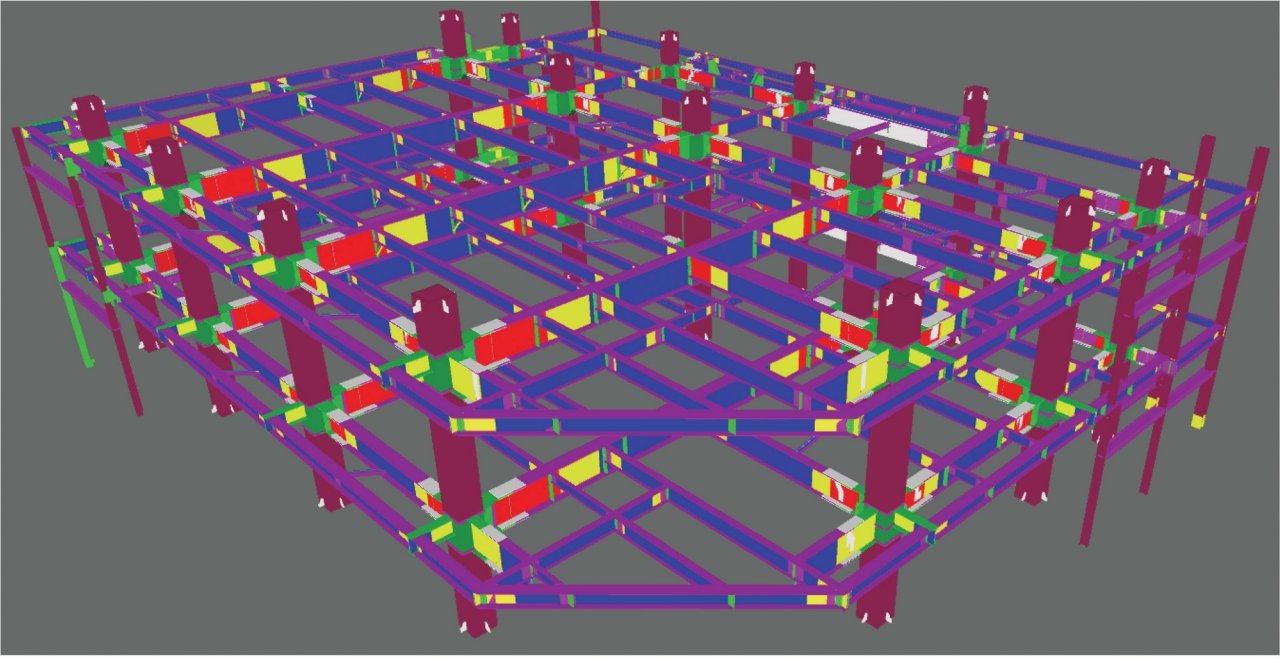
1. 鉄骨製作図

(1)鉄骨専用CADを活用した製作図のフロー

鉄骨専用CADを活用して一般図を調整する段階で、設備専門工事会社をはじめ、エレベーター、ACW、PCa、鉄骨階段などの専門工事会社との連携を図りながら、設備スリーブや各工事専門会社の施工図と整合調整を完了させます。作業所から鉄骨モデルを設備スリーブ検用に設備専門工事会社に提供する際は、梁貫通の可・不可範囲を同時に提供し、後々構造的に梁貫通が不可の範囲に配管の計画がされていて修正することにならないよう、周知しておく必要があります。

整合調整の場面では、設計者、作業所、鉄骨FAB、設備専門工事会社、各専門工事会社が一堂に会しその場で調整をできるだけ完了させ修正回数を減らすことを念頭に運営します。

鉄骨一般図の承認段階では、鉄骨モデルに設備スリーブが配置され、他専門工事会社との整合調整が完了した鉄骨モデルとなるため、鉄骨詳細図(单品図)を作図する際には、回覧などによる設備専門工事会社の設備スリーブ書入れや各専門工事会社の整合調整が必要なく、確認のみの作業となり、鉄骨詳細図(单品図)の作図、承認期間を短縮できます。



▲鉄骨専用CADで作成したモデルの例